

令和元年度 美術学科 FD 研修会報告

日 時：令和元年 9 月 19 日（火）16:00～18:00

場 所：短大美術棟 2F A214 教室

講 師：美術学科 教授 権田宜子、助教授 新井 浩

テーマ：「前期成績評価、授業アンケート等に関する学習成果の評価について」

参加者：権田、堀、新井、本山、和田、大谷、大場

欠席者：東田

美術学科前期における学習成果の評価については、科目レベルを前期の授業アンケート調査結果から、各科目の成績評価について適性に行われているかを GPA の成績分布とともに検証した。各教員でどのように成績評価の基準を設定しているのかを説明し、そのことについて共有するとともに改善点も含めて意見交換した。美術学科では各コースの演習科目について、専任教員のほかに非常勤講師の評価も含んだ総合評価であることから、あるコースでは各教員から出される成績評価についての基準を設け、その評価内容を具体的に示し、結果については数値で表すことで、学生の理解が何処まで深まっているかを可視化し、教員間で共有する取組みについて説明された。学生が何処まで理解していて、何を目標に授業取り組んでいくのかを明示することは教員間の情報共有として大切であり、客観的な根拠をもとに評価の是正しながら成績をまとめていくのは参考となる事例であった。他にもオーディションの評価と成績について等様々な意見をもとに活発な議論が交わされた。

また、学科レベルとして、全教員の GPA 平均値について適正な成績評価をしているか、学科として学習成果の評価が適切に行われているのかを検証した。S（秀）と A（優）評価の割合が多い科目もあったが全体として平均しており、GPA 平均値が 1.5 以上 3.5 以下の範囲内になることを目安とし、開講科目の成績分布と GPA 平均値との関係が適正であるかどうかを継続して検討していく。学修評価シートについては、学習成果の項目と各教科の目標との関連を見直し確認することにした。

今回の FD では、初めて学位プログラムレベル（学科）、科目レベル（授業科目）の学習成果の達成状況の評価し検証したが、各教員に任されている成績の評価方法について共有し、客観的に捉えることができたことは有意義であった。今後とも学習成果の評価について具体的な改善策を考える機会としていきたい。

